

2024年9月30日
企画調整部企画課

(公財) 徳川記念財団所蔵品全数調査結果

1. (公財) 徳川記念財団所蔵品全数調査結果

- ・(公財) 徳川記念財団(以下、「財団」)の所蔵品及び徳川宗家から財団に寄託している資料が合わせて約2万点。
- ・基本計画作成時に主要所蔵品と想定していた、我が国を代表する歴史的な資料(刀剣、茶道具、古文書、印章)、歴代将軍を身近に感じられる資料(肖像画、将軍の手習い)、大奥での暮らしを感じられる資料(染色、工芸)は全て含まれている。

| 分類 | 点数 | 内容 | |
|-------|----------|---|--------------------|
| 刀剣類 | 30 | 太刀、薙刀、柄、鞘など | |
| 茶道具 | 3 | 初花 | |
| 絵画 | 311 | 将軍肖像画・将軍御筆画 | |
| 古文書 | 695 | 書状・消息・軍法・判物・朱印状 | |
| 書跡 | 1,941 | 三公集成、天下色紙、和歌 | |
| 工芸 | 1,213 | 漆工、金工、陶磁器、装身具など | |
| 染色 | 268 | <small>てんしょういん</small> 天璋院、 <small>せいかんいんのみや</small> 静寛院宮の小袖・打掛など | |
| 雛道具 | 360 | | |
| 人形類 | 194 | 御所人形など | |
| 印章 | 73 | | |
| 賞状類 | 318 | 近代資料(感謝状・木杯・調度品関係史料) | |
| 長持 | 16 | 家紋入り長持 | |
| その他 | 23 | | |
| 歴史文書 | 幕末維新史料 | 1,747 | 幕末維新関係書状 |
| | 近世・近代文書 | 2,981 | 江戸期文書、明治期文書 |
| | 和書(文学除く) | 300 | 江戸期の書籍など |
| | 文学 | 110 | 源氏物語、平家物語、伊勢物語など |
| | 漢籍 | 131 | |
| | 雑 | 114 | 茶道・香道関係史料など |
| | 手習文書 | 124 | 近代の手習い |
| | 近現代資料 | 1,679 | 家扶日記、明治初期の御用代取調帳など |
| 古写真 | 写真類 | 3,670 | |
| | アルバム | 2,072 | |
| 副葬品など | 1,564 | 将軍正室、側室、子女など | |
| 合計 | 19,937 | | |

2. 全数調査にて把握した主な資料（抜粋）

(1) 徳川家康関連

- ・家康自筆の書状や和歌、遺訓、自筆絵画等に加え、家康時代の戦に関する写本（長久手軍記、関ヶ原大全、関原軍記、関原始末書、関ヶ原記、関原物語、大坂冬陣日記、難波戦記など）も所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|-----|------------------------|--|
| 1 | 茶道具 | 重要文化財 唐物肩衝茶入 銘 初花 | 唐物肩衝の白眉として珍重された大名物。織田信長、徳川家康、豊臣秀吉、宇喜多秀家等の所有を経て関ヶ原の戦いで家康に献じられた。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 2 | 絵画 | 東照大権現霊夢像 寛永十八年正月十七日 | 箱書に探幽筆と記載され、家康が正面から描かれている作品。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 3 | 絵画 | 大黒天図 | 家康筆。大黒天は豊作を司る神として信仰されてきた。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 4 | 古文書 | 天曹地府祭都状 | 家康が征夷大將軍に任じられた際、天下泰平などを祈願した都状（祭文）。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 5 | 書跡 | 三公集成 | 天下統一を実現した戦国期の武将織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の筆と伝える和歌短冊および色紙を貼り交ぜ軸装した一幅。 (参考：図録「戦国の覇者 徳川家康と浜松」) |
| 6 | 古文書 | 松平元康判物 (牧野正重宛) | 牧野正重が元康（のちの徳川家康）に属することを約した起請文に対して、宛行の保証を与えたもので、永禄4年（1561）に発給された文書。前年に臣従していた今川義元が桶狭間で討死、元康は今川氏の支配を脱して三河一国の領主に返り咲いた。永禄4年は織田信長と同盟を結び、今川氏から完全に離反した年でもある。この書状は永禄6年の家康改名以前の書状で、家康改名後の永禄9年の牧野正重宛文書も所蔵。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 7 | 古文書 | 徳川家康自筆消息 徳川秀忠夫人浅井氏宛 | 慶長元年（1596）閏7月13日、畿内を襲った大地震の被害を受け、秀忠と結婚した浅井氏（お江の方）が家康に送った見舞いの文の返書と考えられる。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 8 | 古文書 | 軍法事 (会津攻伐軍令状) | 本文書は、慶長5年（1600）7月7日、会津の上杉景勝征伐にあたり徳川家康が江戸で従軍諸将に発した軍令。会津征伐は関ヶ原合戦の前哨戦でもあるため、本文書は関ヶ原軍法書としても伝えられている。内容は、喧嘩口論・放火・濫妨狼藉の禁止など軍紀を定めている。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|-----|--|---|
| 9 | 古文書 | 徳川家康書状 ほそかわただおき くろだながまさ とうどう 細川忠興・黒田長政・藤堂 たかたらあて 高虎宛 | 関ヶ原の戦いを前に、尾張清須に滞陣中の東海道先鋒部隊に属する細川忠興・黒田長政・藤堂高虎に家康が送った書状。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 10 | 書跡 | にっかねんぶつ 日課念仏 | 家康が念仏を筆写したとされる。財団所蔵品の詳細は不明だが、類似品は東京国立博物館、常楽寺(上田市)の国指定重要美術品など全国に存在。 |

(2) 歴代将軍肖像画・自筆絵画

・狩野派の絵師が描いた初代家康から 15 代慶喜にわたる歴代将軍の肖像画や自筆絵画を所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|----|--------------------|---|
| 11 | 絵画 | 徳川家光像 | 狩野養信筆。3 代将軍家光の画像。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 12 | 絵画 | 鳳凰図 | 3 代将軍家光筆。鳳凰は中国の想像上の霊鳥であり、天子の聖徳や天下泰平を象徴する瑞鳥。5 色を備えるとされることから、鮮やかな色彩で豪華絢爛に描かれることが多いが、墨のみで愛らしい姿に描かれている。 (参考：図録「戦国の覇者 徳川家康と浜松」) |
| 13 | 絵画 | にわとりず 鶏 図 | 4 代将軍家綱筆。家綱が大納言であった 9 歳のころの作品。家綱は絵画を好み、鶏を描いたものが多く、『寛政重修諸家譜』によれば 15 名の家臣に鶏図を下賜した。鶏を描いた絵を 5 点以上、財団が所蔵。 (参考：図録「将軍綱吉と元禄の世」) |
| 14 | 書跡 | わかしきし 和歌色紙「有明の」 | 2 代将軍秀忠筆。藍色の雲紙に金泥で草葉を描いた色紙に、壬生忠岑の和歌を書写している。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |

(3) 浜松関係資料

・家康が浜松城主時代の阿茶局等の関係資料、書籍類を所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|------------------|----------------------|--|
| 15 | 絵画 | あちやのつぼねぞう 阿茶局像 | 狩野探幽筆とされる。阿茶局（1555～1637）は、今川氏の家中神尾忠重 <small>かんおたしげ</small> の室となったが、夫の没後、浜松城に召され、家康の側室となった。才知にたけ、戦場において家康に供奉し、大坂冬の陣の和議にも尽力した。 |
| 16 | 和書 （文学 除く） | 三河物語 | おおくぼひこざえもんただか <small>げんな</small> 大久保彦左衛門忠教により元和8年（1622）に作成された歴史書。全体の内容としては子孫に宛てた教訓書の体裁をとっている。江戸時代より多くの写本が書かれ、家康の事績を知る上で最重要の書といえる。 （参考：図録「戦国の覇者 徳川家康と浜松」） |
| 17 | 和書 （文学 除く） | 三河記 | 作者不明だが、上巻の表紙裏に「戸田肥後守」の貼紙がみえる。家康の関東移封までが叙述されており、他の類本に比べて内容も詳しい。 （参考：図録「戦国の覇者 徳川家康と浜松」） |
| 18 | 書跡 | たやすむねたけ 田安宗武四十賀和歌 | 賀茂真淵自筆。宝暦4年（1754）、8代将軍吉宗の次男田安宗武の四十歳の祝賀に国学者・歌人の賀茂真淵が詠んだ和歌二首を詞書とともに記した。注記により、この席で宗武が真淵に褒美として葵紋のついた衣を与えたことがわかる。真淵は延享3年（1746）より、和学をもって宗武に仕え、その援護のもと国学を大成した。 （参考：図録「天下泰平」） |
| 19 | 文学 | 賀茂真淵家集 | 門下の村田春海 <small>むらたはるみ</small> が編集した『賀茂翁歌集』といわれる家集の系統本と思われ、真淵の代表的な歌文が収められている。 （参考：図録「天下泰平」） |
| 20 | 和書 （文学 除く） | まつだいらさ 松平記 | 家康の祖父・清康の暗殺から、妻築山殿の自害までの事件を年代順にまとめた資料。比較的事実に近いとされている。原本は見つかっていない。昨年、豊橋市図書館が所蔵する写本が1650～70年頃に記された最古級のもので推定されている。 （参考：豊橋市報道発表資料） |

(4) 刀剣

・将軍家伝来の刀剣類のほか、近代に作成された刀剣目録なども所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|-----|---|---|
| 21 | 刀剣類 | 重要美術品 太刀 銘 来国光 附 くろろいろぬりうちがたなこしらえ 黒臘色塗打刀 拵 | 徳川将軍家に伝来した家康の指 ^{さしりょう} 料。鎌倉時代末期の山城（京都府）の刀工、来国光の太刀。国宝に太刀2振、短刀1振が指定されている。 (参考：図録「徳川将軍家展」、文化庁ホームページ) |
| 22 | 刀剣類 | 重要美術品 太刀 銘 国綱 | 鎌倉時代中期の京・粟田口 ^{あわたぐち} 派を代表する刀工、国綱の太刀。この太刀は数口しか現存しない在銘の作。 (参考：東京国立博物館展示解説) ※国綱の太刀といえば、天下五剣に数えられ、御物（皇室の私有財産）である「鬼丸国綱」が有名。 |
| 23 | 刀剣類 | 太刀 銘 備前国長船 じゅうにんざこんしょうげんながみつくり 住人左近将監長光造 | 鎌倉時代後期の備前国（岡山県）の刀工、長光の太刀。国宝に太刀5振、薙刀1振が指定されている。 (参考：図録「徳川将軍家展」、文化庁ホームページ) |
| 24 | 刀剣類 | 短刀 名物 堺 志津 銘 兼氏 | 南北朝時代の美濃（岐阜県）の刀工、志津兼 ^{かねうじ} 氏の短刀。8代将軍吉宗の命により編纂された日本刀の名刀一覧である『享保名物帳 ^{きょうほうめいぶつちょう} 』掲載。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 25 | 刀剣類 | 短刀 銘 備州長船景光 | 鎌倉時代末期の備前国（岡山県）の刀工、景光の短刀。景光は長光の子とされ、太刀の他、短刀の遺作が多い。国宝に太刀2振、短刀1振が指定されている。 (参考：文化庁ホームページ) |
| 26 | 刀剣類 | 薙刀 無銘 伝法城寺 | 法城寺派は南北朝から室町時代の但馬（兵庫県）の刀工。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |

(5)天璋院篤姫と和宮（静寛院宮）の着物

- ・天璋院所用の着物には小袖、袴、帯、腰巻、道服、掛袷紗などがある。小袖には近衛家の^{はこ}管牡丹を規則的に配しているものもある。和宮所用には打掛、小袖、帯、掛袷紗などがあり、なかには公家女性が着用した意匠がみられ、家茂に降嫁する文久2年（1862）以前に着用あるいは所持していた可能性が高い着物もある。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|----|--|---|
| 27 | 染色 | こそで もえぎもんちりめんじゆきもち 小袖 萌黄紋縮緬地雪持 たけすずめもよう 竹雀模様 | 天璋院所用。蝶と藤 ^{ふじだすき} 襷を織りだした萌黄の紋縮緬地の腰から下に、雪が積もった竹林と飛び交う雀を刺繍した小袖。 (参考：図録「大徳川展」) |
| 28 | 染色 | こそで あさぎちりめんじまつたけうめ 小袖 浅葱縮緬地松竹梅 さくらさくあぼしもよう 桜菊網干模様 | 伝和宮所用。縮緬地の全面に松竹梅と春秋の草花を染めと刺繍であらわした小袖。 (参考：図録「天璋院篤姫と皇女和宮」) |
| 29 | 染色 | かたびら くろべにあきじくもたてわくぼ 帷子 黒紅麻地雲立涌牡 たんうめあおいもよう 丹梅葵模様 | 伝和宮所用。黒紅麻地に金糸や彩り鮮やかな刺繍糸で総模様を施している。 (参考：図録「徳川将軍家へようこそ」) |
| 30 | 染色 | うちかけ しろりんずぢりゅうすいきく 打掛 白綸子地流水菊 ぼたんふじもよう 牡丹藤模様 | 伝和宮所用。白綸子は最高級のものとしていた。着物全体に流水模様をあしらい、菊や牡丹等の模様を刺繍している。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |

(6)天璋院篤姫と和宮（静寛院宮）の嫁入り道具や工芸品

- ・天璋院篤姫と和宮の婚礼調度のほか、雛道具等を所蔵。天璋院篤姫のものでは牡丹紋のついた婚礼調度や雛道具に加え、用筆筒に入っていた和歌や香道関係の資料、薩摩焼類。和宮のものでは、葉菊紋のついた婚礼調度や雛道具、下絵類や手回り品などがある。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|----|--|---|
| 31 | 工芸 | きつまきりこ あいいろせんつきしゆべい 薩摩切子 藍色栓付酒瓶 | 天璋院篤姫の養父、薩摩藩主島津 ^{しまづなりあきら} 斉彬の代で急速に発展した工芸品。薩摩切子は当時のものの現存数は少なく幻とされ、150～200点と言われる。財団では藍色栓付酒瓶、雛道具一式など約10点所蔵。 (参考：サントリー美術館ホームページ) |
| 32 | 工芸 | にしきでししこうろ いそおにわやき 錦手獅子香炉 磯御庭焼 | 磯御庭焼は、島津斉彬の集成館事業の一環で作られた。天璋院が島津家より持参したこの品は、蓋の部分に獅子の彫刻をのせ、獣面の三足を備えた大型の香炉。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |
| 33 | 工芸 | あこだこうろ わらなしじあおい 阿古陀香炉(村梨子地葵 ぼたんもんちらしふたばあおいからくさ 牡丹紋散二葉葵唐草 蒔絵) | 天璋院篤姫の婚礼調度は現存数が極めて少なく、国内外で4点確認されており、そのうちの1点。 (参考：東京富士美術館ホームページ) |
| 34 | 工芸 | あおひょうぎくもんちらしほなまりからくさ 葵葉菊紋散花桐唐草 まきえ たいゆとう てぬぐいかけ 蒔絵 盥・湯桶・手拭掛 (和宮婚礼調度) | 天皇家から将軍家へ入輿した和宮の格式を示す典雅な意匠。財団では、多くの和宮婚礼調度を所蔵。 (参考：図録「大徳川展」) |

(7) 徳川宗家が所有する書画

・徳川宗家伝来・所有の絵画や、15代慶喜までの将軍が詠んだ和歌を所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|----|--------|---|
| 35 | 絵画 | 雲龍図 | 箱書により陳容筆と伝えられる。陳容は、13世紀、南宋末の文人画家。享保16年(1733)狩野探常を通じ将軍家の所蔵に帰したものと考えられる。 (参考：図録「徳川将軍家展」) ※陳容筆と伝わる絵画には、東京国立博物館所蔵「紙本墨画五竜図」(重要文化財)、徳川美術館所蔵「絹本墨画竜図」(重要文化財)など。 |
| 36 | 絵画 | 鍾馗幟之図 | 江戸時代中期の絵師、英一蝶筆。英一蝶は、狩野安信について絵を学び、菱川師宣ら都市風俗画を慕い、松尾芭蕉らと親しく交わり俳諧に通じた。軽妙に市民生活を活写する従来にない表現を確立し、その画風は後の歌麿や国貞らにも大きな影響を与えた。 (参考：図録「将軍綱吉と元禄の世」) |
| 37 | 絵画 | 武蔵野富士図 | 江戸時代後期の絵師、俳人、酒井抱一筆。酒井抱一は、若き日から俳諧や書画をたしなみ、37歳で出家した。その頃から宗達、光琳が京都で築いた琳派様式に傾倒し、江戸後期らしい新たな好みや洗練度を加えた「江戸琳派」と呼ばれる新様式を確立した。 (参考：千葉県美術館ホームページ) |
| 38 | 絵画 | 徳川慶喜像 | 旧幕臣出身の川村清雄筆。川村清雄は、16代家達に従い、静岡に移住。勝海舟の仲介で将軍画像を制作。財団は、「徳川家茂像」、「天璋院像」などの肖像画を中心に、風景画も含め約10点所蔵。 (参考：図録「徳川将軍家展」、「川村清雄展」) |

(8) 幕末と静岡

- ・明治元年に徳川亀之助（家達）に宛てた「静岡領地下賜御沙汰書」など静岡藩関係資料を所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|-----|-------------------------|--|
| 39 | 印章 | 銀印「経文緯武」 ぎんいん けいぶんいぶ | 外国への国書、条約書、条約批准書などに広く使用され、英・仏・米と交わした修好通商条約批准書などにも捺印が確認されている。 (参考：図録「徳川将軍家を訪ねて」) |
| 40 | 古文書 | 静岡藩知事任命書 | 静岡の名称が公式に使用された最初の文書。明治2年6月、版籍奉還を命じた新政府は、地方政治の急激な変化を避けるために、旧藩主をそのまま藩知事に任命し、各藩の官庁機構の統一を図った。16代家達がそのまま静岡藩知事に任じられた。 (参考：図録「徳川将軍家へようこそ」) |
| 41 | 印章 | 駿河藩印 するがはんいん | 新たに誕生した駿河藩が家臣団に対してその身分を証明するために発する文書に捺印する印章。 (参考：図録「徳川将軍家へようこそ」) |

(9) 将軍家に伝わる人形

- ・人形は将軍家の夫人たち所有のものが中心。和宮所有と言われる No. 42、43 を始め、16代夫人泰子、17代夫人正子所有の御所人形、能見立人形、福助人形などがある。また、幕末から近代のものと思われる豆人形は数十点ある。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|-----|---------------------------------------|---|
| 42 | 人形類 | はいはい人形 | 和宮所用。幼児が手に精一杯力をいれて這っている姿を写した、這い這い、這子と呼ばれる御所人形は、大奥では、御台所や御簾中が、こどもを授かることを祈り、平素居間に飾っていたといわれる。 (参考：図録「大徳川展」) |
| 43 | 人形類 | 紅搔取 着衣三ッ折人形 べにかいどりちやくい み つ おれにんぎょう | 和宮遺愛の御所人形として徳川宗家に伝来。箱書に「孝明天皇より御拝領」と書かれている。人間と同様に服を着せ替えて楽しむ衣裳系の人形。 (参考：図録「大徳川展」) |
| 44 | 人形類 | 明治天皇下賜 毛植の虎 めいじてんのうか し けうえ とら | 明治20年、明治天皇が徳川邸に行幸の際、家正（当時4歳）に毛植の虎、妹松子（当時1歳）に毛植の猫（同じく財団所蔵）が贈られたことが箱書からわかる。 (参考：図録「徳川将軍家展」) |

(10)その他

- ほかに「東照宮御実記」など歴代将軍の実記や徳川家の家譜や年譜、系図等の江戸期文書。近世政治史に関わる資史料としては、将軍の公的発言を記した「御意の振」や書状。「源氏物語」「源平盛衰記」「平家物語」「伊勢物語」といった和書、漢籍等を所蔵。また、公爵家、夫人たちの資料は文書に限らず染織品や書画、工芸品、古写真など多岐にわたって所蔵。

| No | 分類 | 資料名 | 内容 |
|----|--------|---------------------------------|--|
| 45 | 古文書 | 柳營補任 <small>りゅうえいぶにん</small> | 徳川幕府初期より幕末に至る幕府諸役人の任命を記したもので、編者は幕臣根岸衛奮 <small>ねがしもりいさむ</small> 。財団所蔵品が原本で25冊からなる。 (参考：東京大学史料編纂所ホームページ) |
| 46 | 幕末維新史料 | 訴状箱鍵 | 訴状箱（目安箱）は8代将軍吉宗により享保6年（1721）に江戸城の評定所前に設置された。訴状箱は将軍の前で、小姓によって鍵が開けられ、訴状は封をしたまま将軍に渡されたという。 (参考：図録「徳川将軍家へようこそ」) |